

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇自転車の安全を守る塩ビリサイクル製品 ーゼブラー

■ [随想](#)

◇オックスフォード便り（番外編：ベトナム その1）

関東学院大学 織 朱實

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇自転車の安全を守る塩ビリサイクル製品 ーゼブラー

本来、自転車は車道を走るものですが、都内では、広い歩道を自転車用と歩行者用に区分しているところがあり、時々、自転車と歩行者の接触事故も話題になっています。一方、海外では自転車は車道を走るものとなっていますが、車道を走る自転車にとっては車が、車にとっては自転車がお互い脅威となるようです。ヨーロッパでもよく車道を走る自転車を見かけますが、その自転車を危険から守るために、自転車専用レーンを設けるための分離ブロックとして、塩ビリサイクル製品が注目されているという話題を“PVC TODAY 春号”の記事より紹介します。

分離ブロックは楕円形の形状で、長さ80cm、高さ9cmないし13cmで、道路に固定するようになっています。ブロックには、白や黄色の縞模様が施され、その部分には反射塗料が塗られていて、雨の日や夜でも車のライトの反射により、運転手から自転車レーンが認識できます。カドがとれた形の楕円形にはもう一つの利点があり、緊急時など車両が自転車レーンに入り込む必要がある場合でも、ダメージを受けにくく壊れにくいということのようです。その縞模様が施されていることから、商品名は“ゼブラ”と呼ばれるそうです。



分離ブロック“ゼブラ”

この製品を開発したのは、スペインの Zicla 社で、使用済み廃棄物の回収とリサイクル製品の製造を専門に行なっている会社です。分離ブロックは、使用済み電線被覆材から作られたものですが、そのほかにも耐久性の要求される産業用床材や道路標識プレートなどにも廃塩ビ製品が使用されているそうです。

欧州の塩ビ業界でも廃塩ビ製品の回収とリサイクルを進めており、2010年には24万トンがリサイクルされています。そして、マテリアルリサイクルのひとつとしてこのような道路標識用製品が増加しているとも伝わっています。（了）

■ 随想

◇オックスフォード便り（番外編：ベトナム その1）

関東学院大学 織 朱實

オックスフォードから帰国して気が付けばはや1年。そして、生涯忘れえようもない震災からも半年、世界中の価値観が根底から覆ったと思われた米国 9.11 から既に10年。時間は、驚くほど早いスピードで過ぎていきますね。もう立ち直れないのではないと思ったかの地も、がれきを取り除かれ、表面上はもうあの猛烈な喪失感をいだかせることはなくなっています。転んで擦りむいた膝小僧の生々しい傷も、時間がたつと薄いかさぶたに覆われていくのに似て、一皮むけば、あいかかわらず奥で乾くことなくじくじくと痛みは疼きつづけるのだけれど。

わが身を振り返れば、「とにかくじっくり一つのことをやろう！」と思ってオックスフォードに向かったはずなのに、震災を経験して「大切な時間をしっかり生き抜こう」と思ったはずなのに、帰国してからは出発前と同じように「こまねズミのように走り回る」毎日にまた逆戻りです。そんななか、アジア方面の出張にいくと、また時間が止まるようでほっとします。空港で、もや一とした亜熱帯の空気が、体にまとわりつくだけで、なんとなく体が弛緩していくのですね。ということで、今回は、帰国してすぐ化学物質の調査で向かったベトナム・ハノイの写真です。

ハノイは、同じベトナムでも商業都市のホーチミンと異なり、ゆったりした古き良きベトナムの面影を残している都市です。古い領事館とか、オペラハウスとかコロニアル調なところも哀愁があります。私にとっての、街の夕景が美しい三大都市は、プラハ、ベルリン（東ドイツ時代の）、ハノイです。ハノイは、それでも、3年ぶりに訪れてみるとおしゃれなブティックも増え、物価も高くなっているのにびっくりしますけど。

変わらないのは、食事のおいしさとバイクの排気ガスのひどさです。みんな大きなマスクを着けています。ベトナムは、バイク天国でみんなバイクに乗っていますが、今回訪問してびっくりしたのがヘルメット着用率の増加！事故が多発するので、高額な罰金を科したところ（メット代金の3倍相当）、あっという間に着用率が向上したそうです。鞭による規制が、まだ効果を奏するお国柄なのですね。



こんな感じなので、シンポジウムで、「日本の自主的取り組み」「レスポンスブル・ケア」の話をして、今一つピンと来てもらえないのです。参加者から「日本はどうやって、企業の自主的取り組みを、政府が強制しているのか？」「罰則はあるのか？」という質問が相次ぐ状態です。強制されたら、もうそれは自主ではないのでは？とつっこみたいのですが、自主でなにかうまくいく、ということがまだまだ信じられないようです。

アジア地域圏の総合的化学物質管理といっても、こういう肌で感じる違いを理解しないと表面的なものになってしまうぞ！と常に気を付けるようにしているのですが（ということで、あちらこちらの街角に出没しているのは、この現場感覚を得るため。これも大切なお仕事？笑。このメールマガジンを見た人に、「織先生、こんな外国でふらふらして、ちゃんと仕事しているの？」と思われてしまうので、ちょっと言い訳！言い訳になっていないかも・・・）。

ベトナムの中でもハノイ特有の食べ物が、スイーツでは、「チェ」という日本でいう「みつめ」「かき氷」的なものがあります。これは、お店によって入れているものが違うのですが私が好きなのは、屋台で食べる「かき氷」「カット・フルーツ（マンゴ、ライチ、ジャックフルーツ、パパイヤ等）」「練乳」をぐちゃぐちゃにかき混ぜる「チェ」（おなかの弱い人は避けたほうがいいのかもかもしれませんけどね）。ちょっとおしゃれなお店だと白玉、柔らかいお餅、ココナツミルクという組み合わせもあります。



もう一つは、「ブンチャ」。これは、麺にグリルしたお肉、香菜、ミント等の野菜をたっぷり入れ、上から汁をかけるもの。野菜は、ボールにドーン！という感じでお代わり自由、って感じででてきます。野菜が沢山食べられるので、出張で「野菜が不足しているな～」というときにはいいですね。いずれも、100円～300円くらいです。花市場や野菜市場、魚市場と色々な路地に市場がたっているのをのぞくのも楽しいです。前は、官庁街のすぐ前の市場が犬市場で、欧州の担当者の方は本当に嫌がっていましたが、それはなくなっていましたね。移転したようです。ハノイの路地歩きだけでも、まだまだ奥が深いのですがハノイ郊外もまた古き良きアジアの面影が残っていていい感じです。次回は、少し文化的な写真をご紹介しますね。



(つづく)

前回：[オックスフォード便り（番外編：フランスその2）－蚤の市－](#)

■ 編集後記

私の住んでいる所は日本で2番目に小さな鳩ヶ谷市（6.22平方キロメートル）です。ちなみに一番小さいのは蕨市（5.10平方キロメートル）です。鳩ヶ谷市と川口市が10月に合併します。

今回の川口市との合併は2度目です。過去に合併し、また分かれて別の市制になり、また再度合併するという珍しい例のようです。合併効果として上下水道の料金が大幅に下がることで喜んでいますが、一方で負担の増えるものも必ずあるはずで今から戦々恐々としています。

鳩山町（埼玉県）、幡ヶ谷（東京）とよく間違われるほど知名度の低い市ですが、こじんまりして私は好きでした。名前が消えてしまうのは寂しいです。（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp